

地域文化の創出と継承

——根釧パイロット・ファームの開拓記念祭を事例に——

宮城教育大学 何淑珍

1 目的

本報告は、北海道の根釧パイロット・ファーム開拓事業によって開拓された北海道別海町豊原地区（旧名：床丹第二地区）の開拓記念祭における文化活動を対象とした事例研究である。本報告の目的は、開拓初代女性たちの自発的文化的なグループ活動が、30年間余にわたって、地域全体の行事である開拓記念祭における地域文化として創出されて定着し、継承されてきている経過についての調査結果から、文化活動が地域社会の形成に果たす役割を明らかにすることである。そこで本報告では、開拓初代女性のインフォーマルな自発的サークル活動が、地域に根ざした文化活動として定着してきたプロセスと、そこでの各農家の世代ごとの参加の仕方に着目する。

2 方法

調査は半構造化インタビューに基づいた事例調査である。2012年から酪農家の初代女性グループのメンバーおよびメンバーの家族成員への個別インタビューを重ね、また年に一度の豊原地区の地域行事である開拓記念祭に報告者も参加し、さらに参加者たちへのインタビューを行った。

3 結果

豊原地区では、女性グループの活動として、踊り、太鼓、獅子舞、ちぎり絵など多彩な活動が創出されてきている。その中で太鼓は1979年に発足し、今日まで継続されている。こうしたインフォーマルな女性グループのサークル活動が、地域文化として発展し定着していくことを可能にしたいくつかの契機が、インタビューから明らかになった。①豊原地区全体が北、中央、東、団地、西、南と分けられており、北区以外の子どもたちは同じ小学校に通学している。女性グループのメンバーが、小学校で太鼓を教えることによって地域の子どもたちが太鼓を叩けるようになった。②女性グループのリーダーであるA氏は、グループ活動へ活動場所を提供しリーダーシップを発揮している。③女性グループの太鼓活動が開拓記念祭の大きなイベントになるよう地域住民を巻き込むために「お祭り勝手連」と名づけて、祭りの準備作業にすべての地域住民が気軽に誰でも「勝手に」参加できるようにした。④開拓初代女性が、孫世代に太鼓を教えることによって、子どもの送り迎えをする親たちをも巻き込みことができ、さらに祖父母世代が孫の演奏を見に来ることで、地域住民全体を巻き込むことになった。⑤新規就農者の子どもたちが太鼓を教わることによって、その親世代が元の住民との交流の場をもつことができた。

4 結論

酪農地域とくに開拓村は生産面が重視され、地域住民の生活の中の文化的側面が見落とされがちである。だが、地域社会の形成にとっては、酪農経営だけではなく、地域文化が創出され継承されているという点が、重要な役割をもつといえるだろう。とくに開拓村であることから鮮明になったのは、親世代から子世代へ、さらに孫世代へと継承されていく場とリーダーの存在が重要だということである。

文献

関清秀, 1963, 「開拓集落の社会構造と家族類型——北海道パイロット・ファームにおける「一家入植型」家族と「分家入植型」家族——」『社会学評論』13(4):2-22.
何淑珍, 2014, 「根釧パイロット・ファームにおける生活文化の形成——開拓初代女性の文化活動を事例として——」『社会学年報』43:95-106.